【施策番号　Ⅲ－３－１８】

分　野	戦　略	九州新幹線全線開業効果の最大化による県全体の発展
品格あるくまもと	重点的に取り組む施　策	熊本駅周辺の整備

１ 施策の概要（ＰＬＡＮ）

(１)背景

●平成２３年３月の九州新幹線全線開業を契機に、連続立体交差事業及び熊本駅周辺の街路整備など、関係各事業を推進している。

(２)めざす姿

●平成２３年３月の九州新幹線全線開業に向けた街路整備等の完成

●本県の玄関口としてふさわしい熊本駅周辺整備を平成３０年度までに完了

(３)解決すべき課題

●新幹線全線開業に向けた、熊本駅周辺の基盤整備の着実な推進

●在来線駅舎の整備

●熊本駅周辺の本県の玄関口としてふさわしい機能（交通結節機能、賑わいの場等）の整備

(４)取組みの概要

【①熊本駅周辺の基盤整備】
工事工程に支障のないよう関係機関と調整を図りながら、関連事業を推進する。
・鉄道を連続して高架化する連続立体交差事業。
・駅周辺のアクセス道路の整備。

【②熊本駅及び駅周辺機能の充実】
関係機関と連携しながら、熊本駅及び駅周辺機能を充実させるための取組みを推進する。
・在来線駅舎の整備に向けた調整及び駅前広場のデザイン調整
・新熊本合同庁舎整備の着実な推進
・駅周辺に魅力と賑わいのある都市機能を導入するための検討。

２ 施策の主な構成事業（ＤＯ）

取組みの概要	担当課	平成２２年度事業／決算（千円）		平成２３年度事業／当初予算（千円）	
熊本駅周辺の基盤整備	都市計画課	連続立体交差事業	1,301,760	連続立体交差事業	4,772,000
		熊本駅東口駅前広場整備事業	510,973	熊本駅東口駅前広場整備事業	25,000
		熊本駅周辺街路整備事業	3,311,128	熊本駅周辺街路整備事業	2,274,222
熊本駅及び駅周辺機能の充実	地域振興課	熊本駅周辺都市機能誘導等推進事業	6,294	熊本駅周辺都市機能誘導等推進事業	6,800

３ 施策の評価（ＣＨＥＣＫ）

(１)指標の推移

	指標（単位）	策定時	Ｈ２１	Ｈ２２	Ｈ２３	目標値	目標値の説明
1	熊本駅の乗降客数（万人／年） ※平成２２年度に設定した指標	762 (H19)	769 (H20)	730 (H21)	754 (H22)	885	他県での新幹線開業による乗降客数の伸びをもとに設定
		〈達成度〉	86.9%	82.5%	85.2%		

(２)指標の分析

1．21年度の減少から、22年度は、新幹線開業後の新幹線利用者の発生に加え、新幹線開業への期待や盛り上がりの効果もあって増加に転じたと考えられる。なお、23年度は、新幹線開業効果の本格化により、大きく増加することが期待できる。

【参考】平成22年度末の事業進捗率（事業費ベース）
・連続立体交差事業　43%
・熊本駅東口駅前広場整備事業　76%
・熊本駅周辺街路整備事業　67%

(３)平成２２年度の取組みの主な成果

【①熊本駅周辺の基盤整備】
・新幹線高架下に在来線を移設する2次仮線工事を推進し、次年度からの本格工事の準備が整った。
・新幹線と在来線との相互乗換・連絡を図る駅間の地下連絡通路が新幹線全線開業までに完成した。
・熊本駅城山線や熊本駅帯山線の道路拡幅工事、市電を車道の中央部から西側の歩道側に寄せて走行させる市電のサイドリザベーション化などの完了により、駅周辺のアクセスが改善した。

【②熊本駅及び駅周辺機能の充実】
・新幹線全線開業に向けた東口駅前広場（暫定形）を整備し、機能の充実化や景観の向上が進んだ。
・ＵＤ（ユニバーサルデザイン）の概念を取り入れてデザインを統一した駅周辺や乗換案内のサインを設置し、分かりやすい表示となった。
・新幹線高架下の商業スペースに上天草市等の県産品販売店を開設し、集客機能が高まった。
・新熊本合同庁舎Ａ棟が完成。また、休止中のＢ棟整備が23年度の政府予算に計上され、駅周辺の更なる機能向上が期待できる状況となった。
・熊本市と連携して、西口から北岡自然公園への散策路案内板を整備し、駅周辺の魅力化が進んだ。

(４)平成２３年度の取組方針、取組状況

【①熊本駅周辺の基盤整備】
・在来線の2次仮線への切り替えを行い、高架橋本体工事に本格着手する。
・連立事業の完成に向けた東口駅前広場整備事業や、駅周辺街路整備事業を推進する。

【②熊本駅及び駅周辺機能の充実】
・新幹線開業後の駅前広場の利用実態調査を行い、駅前広場（完成形）の計画策定を進める。
・駅周辺のアクセス向上のため、本年度末までの春日池上線の完成・供用開始を目指す。
・熊本駅西口から北岡自然公園への散策ルート（歩道）のカラー舗装等を整備する。
・熊本市、経済界と連携して、熊本駅周辺の都市機能導入プランを作成する。

(５)施策の推進に関する総合評価

・熊本駅周辺の基盤整備については、厳しい工程の中、ＪＲ九州や熊本市等の関係機関との調整を実施し、新幹線全線開業に向けた暫定整備を実施することができた。
・新幹線高架下への県産品販売店やよるイベントスペースの設置など、本県の玄関口として相応しい整備が順調に進んでいる。

(６)施策を推進していく場合の課題

・本格化する連続立体交差事業の鉄道高架橋工事について、限られたスペースの中で在来線を順次切り替えていく工事となるなど引き続き難しい工程となるが、関係機関との調整により着実な整備を図る必要がある。
・継続的な熊本駅周辺の魅力と賑わいづくりのため、JR九州や経済界等との連携により、民間を主体とした都市機能の導入をより一層進める必要がある。

４ 今後の方向性（ＡＣＴＩＯＮ）

・九州新幹線全線開業の効果を最大限に発揮するため、JR九州や熊本市をはじめとする関係機関との調整を通じ、「県都の品格のある陸の玄関口」にふさわしい完成形に向けた熊本駅周辺の着実な整備を進める。
・熊本駅周辺の魅力と賑わい作りのため、０番線跡地や鉄道高架下の利活用について検討し都市機能の導入を図る。
・駅周辺と中心市街地との連携による回遊性の向上と利便性の向上を図る。